



思い出ば おなじ空とは 月を見よ ほどは雲居にめぐり逢うまで



3月14日(土)第72回卒業証書授与式が行われました。新型コロナウイルス感染防止のため、式を簡略化するなどの対応をしたものの、おかげ様で厳粛のうちにも意義深い卒業式となりました。卒業証書は代表して太田愛佳さんに授与され、校長式辞、PTA会長の久野様の祝辞、在校生代表の劉文莫さんの送辞、そして最後に卒業生代表の岡田悠芽さんが答辞を読み上げました。そのメッセージの一部を紹介します。



在校生の皆さん、私は二度の生徒会活動を通して気づいたことがあります。それは、失敗することは何でもないということ。それどころか、その後の活動においてむしろプラスになるということです。自分と同じ志をもつ仲間と熱く意見を交わし合ったあの時間が、自分を成長させてくれました。皆さんにはぜひ、いろいろなことに積極的に挑戦してほしいと思います。必ず自分が成長できたという証をつかむことができますはずです。



最後に私の良き戦友であり、かけがえない宝物である129人の仲間たち。私にとって部活動をはじめとする幅広い分野で活躍しているみんなの姿が本当に眩しかったです。自分も頑張ろうと活力をたくさんもらいました。夜遅くまで、勉強や友達のこと、果ては好きな人の話まで盛り上がり、なかなか寝付けなかった和東町の民泊体験、最優秀賞をとろうと扇風機の風力を「強」にして、何とか暑さに耐えながら、練習した合唱祭。「全力」でぶつかっていくことのカッコよさを学んだ運動会。楽しみながら金沢の誇るべき美しい文化に触れた飛梅祭。そして何よりもごく平凡な温かい毎日の学校生活。そこには、みんなで爆笑した冗談や学び合ひではっとさせられた斬新な意見がありました。みんなと一緒に歩んだこの3年間のどの記憶も私には「幸せ」そのものです。みんなに出会えたこと。みんなとたくさんの行事を創り上げたこと。みんなに支えてもらったこと。ありがとう。これからは、毎日会うことはできないけれど、どうかそれぞれの道で、煌びやか大輪の花を咲かせてください。



冒頭は、百人一首の序歌「難波津に 咲くや この花 冬ごもり 今は春べと 咲くやこの花」で始まり、最後は「思い出ば おなじ空とは 月を見よ ほどは雲居にめぐり逢うまで」(新古今集卷九離別)で締めくくり、会場が感動に包まれる凜とした答辞でした。

卒業生129人が、未来に向かって大きく羽ばたく存在になることを期待しています。なお、金沢市教育委員会の祝辞は各教室で配布されました。

